

《教育長メッセージ 第15号》

『子どもたちに求められている力』

「子どもたちに求められている力」は、その時代時代の社会状況に大きな影響を受けます。

もちろん、子どもたちが「知・徳・体」の力をバランスよく身につけ、健やかに成長してほしいという願いは、いつの時代も変わるものではありませんが、戦時中に行われた教育は、どうだったでしょう。高度経済成長期に行われた教育は、どうだったでしょう。



そう考えると、今の、これからの「子どもたちに求められている力」とはどのような力で、教育はどうあるべきなのでしょう。

文部科学省は、『現在、私たちを取り巻く社会経済のあらゆる面が大きく変化しており、知識が社会・経済の発展の源泉となる「知識基盤社会」が本格的に到来しようとしていて、競争や技術革新が絶え間なく起こる「知識基盤社会」では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい知や価値を創造する能力が求められ、これからの社会を生きる子どもたちには、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力、様々な情報を取捨選択する力などが求められる。』としています。そして、その能力を「生きる力」とし、学校・家庭・地域が力をあわせて、社会全体で育むことを目指しています。

また、アメリカの研究者からは、「今後10～20年程度で、アメリカの総雇用者の47%の仕事が自動化されるリスクが高い。」「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」という予測が発表され、産業界からは、「他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身につけた人材」「社会・経済の変化に伴うニーズに対応した人材」が求められているところです。

このような未来予想と、子どもたちに求められる力をふまえて、私たちは、国家や大人の側からの都合だけで子どもたちを翻弄することなく、子どもの将来のしあわせのために、大人の責任として、どんな教育を实践すべきなのでしょう。

私は、「生きる力」を受けて、「えびなっ子しあわせプラン」において、「学力」「集団力」「健康安全力」を小中学校の9年間で確実に身につけることを目指して、海老名の教育を進めているところです。

今後も海老名市として、今、子どもたちにどんな力を身につけることが

求められ、そのために、どんな教育を進める必要があるのか、議論できればと考えています。

子どもたちの将来のために、この国も未来のために、みなさんとともに考えていきたいと思っています。

次回は、『星』について、自分の思いをあれこれ伝えたいと思っています。